



高柳さんのミニトマト



赤く完熟したものを収穫して出荷していますが、日が照らない今の時期はなかなか色づきません。



ミニトマトは生命力が強く、どんどん脇芽が出てきます。時間があればひたすら脇芽欠きです。



背丈を超えるくらい大きく育ち、ハウスの中はまるでミニトマトのジャングルようです。

★ミニトマト、収量が安定し始めました

今年は春が温暖だったこともあり、大体の野菜の生育が早く進んでいます。ただ、今の時期は梅雨らしく曇天・雨天が続いているため、実野菜はなかなか出荷が安定しません。花を咲かし実がなるミニトマトのような実野菜にとっては、晴れ間がないと花がなかなか咲かず、花が咲いても受粉が進まないのを実が付きずらく、さらに実がついてもなかなか赤く色づかないのです。

「なりものは本当に読めないんだよ。天気次第だよ」と、キュウリ、ナス、そしてミニトマトなど多くの実野菜を育てる高柳場長もこの時期は出荷が思うとおり出来ないことにもどかしい思いです。

しかし、収量が上下するとはいえ、ミニトマトは大分安定的に出荷が出来るようになってきました。寒い2月に種を蒔き、3月に鉢換え、4月に畑へ移植し、その後も原産地のアンデス地方の環境に少しでも近づけるべく、水を極力与えず育ててきたミニトマト。今は背丈を超える程の高さになり、実も順次赤く色づいてきています。完熟したものを毎日収穫し出荷しているのですが、脇芽や下葉を欠いたり紐で誘引したりと作業はいくらでもあります。同時に50枚以上の無農薬田んぼの管理と畦刈り、これから出荷のナス、空心菜、モロヘイヤ、カボチャなどのお世話もあり「猫の手も借りたいとはこのことだよ」という状態です。

高柳家一同、力を合わせ超人的な働きをしながら、出荷が本格化してきたミニトマト。味はいつものごとく折り紙付きですよ。

おかげさま農場は、「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

【産地情報】

◎ニンニクの出荷が始まりました。また、小玉スイカは7月3~4日頃に出荷開始予定です。